

小中学校における制服・ 新入学用品等の購入に関する 提言書

保護者負担の軽減と
「すべての子どもにやさしいまち」のために

令和6年2月29日
松本市教育委員会

目 次

1	はじめに.....	1
	(1) 研究の背景と目的.....	1
	(2) 研究の方法.....	2
	(3) 研究の経過.....	2
2	松本市の公立小中学校における入学時購入物品の現状.....	4
	(1) 小学校.....	4
	(2) 中学校.....	5
	(3) 運動着販売の指定店の有無.....	6
3	関係者との意見交換会開催結果.....	7
	(1) 松本市PTA連合会との意見交換会.....	7
	(2) 市内中学生との意見交換会.....	8
	(3) 学校長及び学校事務職員との意見交換会.....	9
4	制服・新入学用品等の購入に関する課題.....	10
5	小中学校における制服・新入学用品等のあり方.....	12
6	おわりに.....	13
	【参考】意見交換会での関係者からの意見.....	14
	【参考】令和5年度第2回総合教育会議 開催概要.....	19
	【参考】第9期まつもと子ども未来委員会 市への提言（抜粋）	21

1 はじめに

(1) 研究の背景と目的

令和3年4月に松本市パートナーシップ宣誓制度(※)が導入された後、市立中学校の男女別の制服のあり方について、市長への手紙が相次いだことをきっかけに、教育委員会では、市立中学校の制服の状況についての調査を行いました。調査の趣旨は「ジェンダーフリーの推進」でしたが、令和3年度第3回定例教育委員会では、今求められているのはジェンダーフリーだけでなく「ダイバーシティ(多様性)」なのではないかとの議論がされました。

制服に関しては、保護者の経済的負担の観点から、平成29年11月に公正取引委員会が「公立中学校における制服の取引実態に関する調査」を公表し、これによりますと、保護者が入学にあたって準備する品目の中で、制服の購入に係る費用は比較的高額であり、その販売価格は、近年、上昇傾向にあることが指摘されています。制服の取引における公正な競争の確保のため、公正取引委員会が学校に対して期待する取組みとして、制服メーカー間や販売店の競争を促すことなどが示されています。

また、このことに関連して、保護者の教育費負担が重すぎることも課題となっています。文部科学省では、保護者が子どもの学校教育及び学校外活動のために支出した1年間の経費の実態をとらえる「子供の学習費調査」を隔年で実施していますが、令和3年度の調査では、公立小学校の「学習費総額」は、年間約35万円(2年間で約3万円上昇)、公立中学校は年間約54万円(2年間で約5万円上昇)となっており、令和5年度の調査では、物価高騰を受けさらに上昇していくことが予想されます。

このような状況は、ひいては教育格差につながるものであり、社会全体でこれを是正していくことが必要です。平成30年3月には、文部科学省から学校及び教育委員会に対して、学校における通学用服等の学用品等の購入について、保護者等の経済的負担が過重なものとならないよう留意する旨を促す通知が出されましたが、学校の実態として、それらの取組みがなかなか進んでいないというのが、教育委員会としての問題意識の始まりとなりました。

令和4年松本市議会9月定例会一般質問においても、小中学校入学時及び1年次の必要購入品(制服・学用品)に係る保護者負担の軽減が全校で進むよう要望が出されています。

※ 松本市パートナーシップ宣誓制度：人生のパートナーシップ関係にあるお二人の宣誓を市が受け止め(一方又は双方が性的マイノリティであること等が宣誓の要件)、パートナーシップ宣誓書受領証等を交付することにより、市営住宅の入居申込等が可能となる、性別にかかわらず個人が尊重される、多様性と活力に満ちたまちの実現を目指す制度

これらを受けて、教育委員会としては、“子どもの多様性を認めるとともに、入学時の購入物品に係る保護者負担軽減のためにどのような支援ができるか”というテーマを設け、学校の取組みを少しでも後押しできればと考え、研究・提言をすることにしました。

当初は、教育委員研究会において非公開で議論しながら研究を進め、教育委員会が考える望ましい方向性を提言する予定でしたが、突然それを受け取った学校側は対応に悩むのではないかという懸念が生まれました。そこで、研究の方法を再検討し、公開の場で保護者や子どもたち、学校関係者とも意見交換を重ね、それを公表するなどの過程を丁寧に踏みながら、提言を作成することとしたものです。

(2) 研究の方法

- ア 制服・新入学用品等に係る基礎資料（国の調査結果や通知等）を確認し、教育委員研究会で意見交換
- イ 制服のあり方を見直した学校の検討経過や現状等を聴取するため、教育委員研究会で当該学校長との意見交換
- ウ 松本市立及び松本市山形村朝日村中学校組合立の全小中学校を対象として、入学時又は1学年次に保護者に対して児童生徒全員に統一規格の物品購入を求めたものを調査するとともに、運動着の販売指定店の有無についても調査
- エ 制服・新入学用品等の購入について、保護者の意見を聴取するため、松本市PTA連合会の役員と意見交換会を開催
- オ 制服・新入学用品等の購入について、子どもたちの意見を聴取するため、市立中学校の生徒代表と意見交換会を開催
- カ 制服・新入学用品等の購入について、学校関係者の意見を聴取するため、学校長及び学校事務職員の代表者と意見交換会を開催
- キ 総合教育会議において、市長と提言（案）について意見交換

(3) 研究の経過

5.	6. 23	教育委員研究会 (制服・新入学用品等に係る基礎資料について)
	7. 20	教育委員研究会 (制服のあり方を見直した学校の事例について)
	9. 5～12	入学時（又は1学年次）の購入物品調査
	21	松本市PTA連合会と教育委員との意見交換会
10.	19	市内中学生と教育委員との意見交換会

- 1 1. 1 7 学校長及び学校事務職員と教育委員との意見交換会
- 6. 1. 2 5 教育委員研究会において提言（案）について協議
- 2. 6 令和5年度第2回総合教育会議

2 松本市の公立小中学校における入学時購入物品の現状

令和5年9月、松本市立及び松本市山形村朝日村中学校組合立の全小中学校を対象として、入学時又は1学年次に保護者に対して児童生徒全員に統一規格の物品購入を求めたものを調査した結果は、以下のとおりでした。

※ 副教材（ドリル、テスト等）、連絡帳、ファイル類、ノート類、シール類、休み帳、水着類、技能教科教材、洗濯ばさみは含めないものとししました。

(1) 小学校

ア 入学時に購入するもの

物品名	統一規格で購入している校数(全28校) [校]	購入費用の平均 [円]
引き出し	25	627
運動着（一式）	18	10,520
給食着（一式）	14	2,759
上履き	14	2,077
紅白帽子	12	908
名札	6	93
名前入鉛筆	5	863
給食トレイ	1	980
名札（運動着）	1	160
書写用鉛筆	1	105
ハンカチ	1	100

イ 1学年次に購入するもの

物品名	統一規格で購入している校数(全28校) [校]	購入費用の平均 [円]
探検バッグ	25	771
粘土セット	25	910
図工クレヨン	25	615
色鉛筆（全芯タイプ）	23	748
はさみ	18	362
鍵盤ハーモニカ	17	5,682
縄跳び	17	571
算数セット	11	2,255
工作マット	7	507

朝顔セット	6	907
のり	5	138
道具袋	3	127
連絡袋	3	307
色鉛筆	2	695
カスタネット	1	240
ネームペン	1	110
折り紙	1	80
ボンド	1	110

(2) 中学校

ア 入学時に購入するもの

物品名	統一規格で購入している校数(全20校) [校]	購入費用の平均 [円]
運動着(一式)	20	13,208
上履き	20	3,712
靴	19	7,126
帽子	19	1,403
制服(一式)	※ 16	38,084
名札	16	434
ポロシャツ	9	3,414
校章	9	438
給食着(一式)	8	2,663
通学靴	1	3,300

※ 20校中16校は「制服あり」、その他4校のうち1校は「制服なし」、残る3校は「標準服」を定めています。

「標準服」とは

生徒や保護者のさまざまな考え、多様性に対応するため、制服を一律に定めるのではなく、ブレザーやスラックス、スカート、ネクタイ、リボン等の学校専用品は設定するものの、それらに形や色などが適合していれば、市販品の着用も可能とするもの



イ 1 学年次に購入するもの

物品名	統一規格で購入している校数(全20校) [校]	購入費用の平均 [円]
美術デザインセット	11	2,483

(3) 運動着販売の指定店の有無

運動着の指定販売店がある小学校数 (全28校) [校]	15
運動着の指定販売店がある中学校数 (全20校) [校]	18

3 関係者との意見交換会開催結果

(1) 松本市PTA連合会との意見交換会

ア 日時

令和5年9月21日（木）午後3時～4時30分

イ 会場

松本市役所大手事務所3階 教育委員室

ウ テーマ

市内小中学校における制服・新入学用品等の購入の現状について

エ 出席者

<松本市PTA連合会> 会長、副会長 計4名

<松本市教育委員会> 伊佐治教育長、小柳教育長職務代理者、
佐藤教育委員、春原教育委員、福澤教育委員、教育次長、教育監、
教育政策課長、学校教育課長ほか3名

オ 保護者からの主な意見

- ・卒業後、家に持ち帰ってきてても使い道がない（引き出し等）。
- ・制服（夏服）を買っているのに、ポロシャツも買わなければならないのは無駄が多い。
- ・使用頻度が低いにもかかわらず、兄弟全員分購入する必要があった（鍵盤ハーモニカ等）。
- ・学校内で使い回してほしい（引き出し等）。
- ・共働きの家庭が増える中で、算数セットに名前シールを貼る作業は大変。個人所有の必要はないのではないか。
- ・中学校の鞆の形はどの学校も似ているが、校章が違うので使用後に譲ることができない。校章がなければ校区を超えたりユースも可能になる。
- ・幼稚園や保育園で購入して持っているものを、小学校入学時にも購入する必要があった（色鉛筆、はさみ等）。
- ・安全に配慮されたものであれば、同じものでなくてもよい（はさみ）。
- ・必要なものだけ買えばよいなら、合理的・経済的で助かるのではないか。
- ・通学靴が指定されており、長い距離を歩くので買い替えも必要だったが、指定店でしか買えなかった
- ・指定の鞆とは別に、運動着等を入れた任意のスポーツバッグを持っているので、鞆も指定でなくてもよいのではないか。
- ・指定販売店が1～2店ずつしかないなので、もう少し競争や市場原理が入



ってもよいのではないか。食料品は毎日少しでも安いものを買うよう努力しているのに、学用品はワンプライスというのはいか。

- ・指定されたほうが楽というのはあるが、それによって値段が高くなっているかもしれない。
- ・大型店で買えるようになると、地元洋品店は経営が厳しくなる心配はあるが、保護者負担を減らすことを一番に考えると仕方ない部分もある。

(2) 市内中学生との意見交換会

ア 日時

令和5年10月19日（木）午後4時～5時30分

イ 会場

松本市役所大手事務所3階 教育委員室

ウ テーマ

市内小中学校における制服・新入学用品等の購入の現状について

エ 出席者

<中学生> 清水中学校（制服あり） 3年生3名
鎌田中学校（ジェンダーレス制服あり） 3年生3名
丸ノ内中学校（制服なし） 3年生2名

<松本市教育委員会> 伊佐治教育長、小柳教育長職務代理者、
佐藤教育委員、春原教育委員、福澤教育委員、教育次長、教育監、
教育政策課長、学校教育課長ほか3名

オ 中学生からの主な意見

- ・同じ服装で同じ行事（体育祭）に参加すると団結力につながるので、運動着は統一したほうが良い。
- ・そろっていることで校風が引き締まる面はあると思うので、統一したほうが良い。
- ・中学はいろいろな人が集まるので、校則を守ることが大事だと思う。
- ・みんなが同じものを着るのは、考える必要がなくて楽だが、自分はみんなと同じはあまり好きではない。自由な服なら個性を出す手段になる。
- ・指定されるよりも自由なほうが、機能性も見ながら、自分に合ったものを選べる。
- ・今の時代、個性を尊重する傾向にあるので、統一されすぎているのは時代にそぐわない。



- ・指定店が決まっているので、価格が高いと親が言っていた。
- ・制服は、特に女子はお金がかかる。制服も体操着も指定店でしか売っておらず、それで高すぎるということもあるのではないか。もう少し販売店を増やして価格の競争をすれば、今より価格も下がるのではないか。

(3) 学校長及び学校事務職員との意見交換会

ア 日時

令和5年11月17日（金）午前9時～10時30分

イ 会場

松本市役所大手事務所3階 教育委員室

ウ テーマ

市内小中学校における制服・新入学用品等の購入の現状について

エ 出席者

<学校長（松本市校長会役員）> 小学校長2名、中学校長3名

<学校事務職員（松本市小中学校事務研究会役員）> 小学校3名、
中学校1名

<松本市教育委員会> 伊佐治教育長、小柳教育長職務代理者、
佐藤教育委員、春原教育委員、福澤教育委員、教育監、教育政策課長、
学校教育課長ほか3名

オ 学校関係者からの主な意見

- ・保護者負担を減らすのはなかなか難しいが、まだ改善の余地はある。
- ・耐久性を考えたときに、保護者がお店で適切な物品を選ぶことは逆に難しい面もある。有名メーカーのものだともっと高くなってしまう。
- ・「学校で買わないので各自買ってきてください」と言うと、買ってこない家庭も出てくるだろう。だからと言って学年費で買うと、不要な家庭への返金を管理しなければならなくなる。
- ・子どもから「どうして制服が必要なの？」と聞かれたら、大人は答える責任がある。答えられないならやめたほうが良い。
- ・ルールをもっと柔軟に考えさせても良いが、その議論を子どもたちに持ち掛ける時間がなかったというのも現実。子どもたちにはいろいろな意見があるし、変えていく力もあるので、考えさせていくことは大切だと思う。
- ・生徒は制服があるとちゃんと着なければならぬという意識がものすごく高い。自由なほうが良いという意見と折り合いがついて、気持ちの良い状態で学校に通えるようになれば良い。

4 制服・新入学用品等の購入に関する課題

保護者、中学生及び学校関係者との意見交換会を通して、制服・新入学用品等の購入に関する現状について、以下の課題が見えてきました。

(1) 購入の必要性について

意見交換会での保護者からの意見として、「卒業後、家に持ち帰ってきても使い道がない（引き出し等）」、「制服（夏服）を買っているのに、ポロシャツも買わなければならないのは無駄が多い」等の声がありました。



本当に全員が購入しなければならないものか
前例踏襲に陥ることなく、必要性が検討されているか

(2) リユースについて

意見交換会での保護者の意見として、「使用頻度が低いにもかかわらず、兄弟全員分購入する必要があった（鍵盤ハーモニカ等）」、「学校内で使い回してほしい（引き出し等）」、「共働きの家庭が増える中で、算数セットに名前シールを貼る作業は大変。個人所有の必要はないのではないか」、「中学校の鞆の形はどの学校も似ているが、校章が違うので、使用後に譲ることができない。校章がなければ校区を超えたリユースも可能になる」等の声がありました。



家庭内、知人間、学校内で再利用できるものはないか
不用品を譲り合い、リユースを促す仕組みや機会をつくることができないか

(3) 統一規格である必要性について

意見交換会での保護者からの意見として、「幼稚園や保育園で購入して持っているものを、小学校入学時にも購入する必要があった（色鉛筆、はさみ等）」、「安全に配慮されたものであれば、同じものでなくてもよい（はさみ）」、「必要なものだけ買えばよいなら、合理的・経済的で助かるのではないか」、「通学靴が指定されており、長い距離を歩くので買い替えも必要だったが、

指定店でしか買えなかった」、「指定の鞆とは別に、運動着等を入れた任意のスポーツバッグを持っていくので、鞆も指定でなくてもよいのではないか」等の声がありました。

また、中学生からは、「みんなが同じものを着るのは、考える必要がなく、楽だが、自分はみんなと同じはあまり好きではない。自由な服なら個性を出す手段になる」、「指定されるよりも自由なほうが、機能性も見ながら、自分に合ったものを選べる」、「今の時代、個性を尊重する傾向にあるので、統一されすぎているのは時代にそぐわない」等の意見がありました。



全員が統一して同じものを用いる必要があるか

(4) 公平、公正な納入方法について

意見交換会での保護者意見として、「指定販売店が1～2店ずつしかないのも、もう少し競争や市場原理が入ってもよいのではないか。食料品は毎日少しでも安いものを買うよう努力しているのに、学用品はワンプライスというのはどうか」という声がありました。

また、中学生の意見には、「指定店が決まっているので、価格が高いと親が言っていた」、「制服は、特に女子はお金がかかる。制服も体操着も指定店でしか売っておらず、それで高すぎるということもあるのではないか。もう少し販売店を増やして価格の競争をすれば、今より価格も下がるのではないか」といった声がありました。



購入価格決定、業者選定に公平、公正な方法が採られているか

(5) 学校間の差について

市立中学校で一番高額な制服は約9万円であるのに対して、制服の指定のない学校や標準服の学校もあります。同じ松本市でも、地域・学区によって金額に大きな差があることについては、疑問の声もありました。



学校間において保護者負担に著しい差が生じていないか

5 小中学校における制服・新入学用品等のあり方

制服・新入学用品等の購入に関する現状を研究する中で見えてきた購入のあり方について、保護者の負担軽減という立場から、松本市教育委員会は、次のとおり提言します。

(1) 多様な選択を許容できる仕組みづくりを

統一規格の入学時購入物品の中に、類似の品物で代替できるものや、色や形だけを指定し、あとの判断は保護者に委ねることができるものがあれば、保護者も児童生徒も多様な選択が可能となります。

同じであることが楽な生徒もいますし、同じであることが苦しい生徒もいます。考え方はそれぞれあると思いますが、選択肢を拡大し、個人に合ったものを選択できることが大切と考えます。

一つの方法として、段階的に統一規格の指定をなくしていく方法も考えられます。例えば、運動着の場合、夏用の白いTシャツなどから指定をなくす、又は最初に購入する1枚は指定のものとし、買い替える際は類似品の購入を許容するなど、最初は指定販売店で購入し、次からはどこでも買えるようにするなどの方法も、検討の余地があると考えます。

制服についても、枠組みを外すと服装が乱れてしまうと危惧する見方がありますが、子どもたちは子どもたちなりに周囲とそろえ、華美に走ることはないと考えられます。

(2) 学校と保護者及び児童生徒の意見交換の場づくりを

学校で使用するものは、多様な選択を許容できる仕組みを望みますが、学校の実態に合わせて、保護者及び児童生徒の意見を聞き、学校に合った形に決めるのがよいと考えます。購入物品を指定する場合は、皆の意見を聞いた上で、業者選定に公平、公正な方法を採用することが望ましいと考えます。

いずれにしても、時間をかけて保護者・生徒・学校が遠慮せず話し合う機会をもつことが、良い結果に結びつきます。

特に、中学生との意見交換会で出された意見には「なるほど」と思うことがたくさんありました。保護者や学校の願いを伝えながら、同時に当事者である子どもたちの声をきちんと捉えて、じっくり考えてほしいと思います。

6 おわりに

今年度、教育委員会として、“子どもの多様性を認めるとともに、入学時の購入物品に係る保護者負担軽減のためにどのような支援ができるか”というテーマにそって調査・研究をしてきましたが、その過程の中で、ジェンダーの観点から制服から標準服への変更を進めてきた学校の校長から、次のような話がありました。

「標準服は、リボン、ネクタイ、ズボン、スカート、みんな着ているものが違います。今年の文化祭のステージは、みんなバラバラの服装で登壇しましたが、『バラバラでも) いいじゃないですか』と、先生方の意識が随分変わってきたと感じています。」

その話を聞き、制服や学用品にもう少し多様性を認めることが、学校の管理や統一を解いていく一つのきっかけになるのではないかと感じました。

もちろん制服は一つの象徴的なものであり、中学校で統一された制服が決まっているのは、その学校における歴史的な願いがあったものと思います。そのため、制服を変える時も、生徒や保護者、学校が話し合いながら、願いをもって決めていくことと思います。ただ、将来的には、小学校も中学校も高校も、7歳から18歳まで、学校に着ていく服が決まっていない松本市であれば素敵だなと思います。

社会人になってから大事なものは、TPOに合わせて服装や持ち物を整えていくことです。小学生の時から、子どもたちが保護者の方と相談しながら、自分で服装などをそろえ、自律的に判断していくことが大事だと考えます。

制服や新入学用品等の購入に関する見直しの取組みを進めることによって、保護者負担の軽減とあわせて、松本市教育大綱に定める「子どもが主人公 学都松本のシンカ」に向けて、一見遠回りに見えても、学校を柔らかくし、すべての子どもの違いが、「自分らしさ」として認められていく、「すべての子どもにやさしいまち」につながることを願っています。

【参考】意見交換会での関係者からの意見

<保護者からの意見>

- (1) 引き出し
 - ・卒業後、家に持ち帰って、雨の日の長靴置き場になっている。
 - ・学校内で使い回してほしい。
- (2) 色鉛筆（全芯タイプ）、はさみ
 - ・幼稚園で購入した方も多いのではないか。幼稚園の時に購入したものも含め、家に3セットくらいある。
 - ・例えば色鉛筆（全芯タイプ）などは、幼稚園や保育園からおそらく皆持っている。必要なものだけ買うのでもよいなら、合理的・経済的で助かるのではないか。
 - ・ハサミも安全に配慮されたものであれば、一律でなくてもいい。
- (3) 鍵盤ハーモニカ
 - ・音楽の先生によって、「兄弟が持っていれば買わなくてもよい」とか、「必ず買ってください」など対応が異なる。使用頻度が低いにもかかわらず、子どもが3人いると3つ溜まってしまう。
- (4) 算数セット
 - ・鍵盤ハーモニカより使わなかったという実感。名前シールを貼るのが大変
 - ・働いている保護者が多い中で、負担を減らせないかと思う。
- (5) 通学靴
 - ・通学靴が指定されており、真っ白な紐靴で、冬もそれで通っていた。長い距離を歩くので買い替えも必要になるし、指定店に連絡を取って受け取らなければならなかった。
- (6) 上履き
 - ・靴屋では指定でないものが売っている。今は何でも良いのではないか。
- (7) カバン
 - ・指定のカバンとは別に、運動着等を入れた任意のスポーツバッグを持っているので、カバンも指定でなくてもよいのではないか。学校ごとに素材も形も違うので、個人個人で違ってよい。
 - ・学校ごとにカバンの形は似ているが、校章が違うので、使用後におさがりで譲ることもできない。校章がなければリサイクルも可能になる。
- (8) ポロシャツ
 - ・制服（夏服）を高いお金を出して買っているのに、ポロシャツを買わなければならないのは無駄が多い。
- (9) 販売指定店について

- ・指定されたほうが楽というのはある。ただ、それによって値段が高くなっていくかもしれないし、難しい。
- ・指定販売店でズボンの丈のお直しなど親切な対応をいただいている。助かってはいるが、値段を見ると高いかなとも思う。大型店で買われてしまうと、地元洋品店は経営が厳しくなるという心配はある。
- ・指定販売店は、靴のサイズもそろっていて便利ではある。
- ・保護者の負担を減らすことを一番に考えると、仕方ない部分もあると思う。

<中学生からの意見>

(1) 新入学用品の買替え、買足しの有無について

- ・中学3年生までの間で、運動着を修学旅行や宿泊学習のために買い足した。
- ・買い足しはせず、兄のお下がりを使っている。
- ・部活動は週4回あるので、洗い替えのため最初に2着買った。
- ・上履きは買い替える人も多い。
- ・兄が2歳違いなのでお下がりをもらえず、かなりお金がかかった。

(2) 制服・運動着等は、統一規格のものを着たいか。自由なものを着たいか。

【統一したほうが良い】

- ・学校には校則があるし、校風委員の皆さんが学校のために頑張っている。ルールを守るという意味で学びになると思うので、統一したほうが良い。
- ・同じ服装で同じ行事（体育祭）に参加すると団結力につながるので、運動着は統一したほうが良い。
- ・校外学習で運動着などを着用した状態で移動する場合は、校章が付いていないと、はぐれたときに所属が証明できない。
- ・自分の学校では、「統一する」ことに対する優先順位は低いと感じる。しかしながら、そろっていることで校風が引き締まる面はあると思うので、統一したほうが良い。
- ・制服が決まっていたほうが、団体行動に支障をきたさないという意味では良い。私服での通学だと、帰り道で寄り道をしてバレないので、そういう人も出てくるのではないか。
- ・個人的には、制服が嫌なら高校は私服で登校できる場所を選べばいいし、制服が良いなら制服のある高校に行けば良い。中学はいろんな人が集まるので、一つの校則を守ることが大事だと思う。自由は高校からでよいのではないかと思う。

【自由なほうが良い】

- ・あまりデザインが違わないなら良い。
- ・あくまで運動のためだけに用いるのであれば、デザインが少し異なっていて

も、大まかな指標さえ決まっていれば良い。

- ・みんなが同じものを着るのは、考える必要がなくて楽。でも、自分はマジョリティよりもマイノリティに身を置きたいので、みんなと同じはあまり好きではない。自由な服なら個性を出す手段になる。
- ・指定されるよりも自由なほうが、機能性も見ながら、自分に合ったものを選べる。基本的に中学の制服は全体的にデザインや色が似ているので、統一されていなくても、自分だけ目立ったり疎外感を感じたりすることはない。
- ・今の時代、個性を尊重する傾向に世の中があるので、統一されすぎているのは時代にそぐわないと思う。
- ・制服が決まっていると、気候に応じた体温の管理がしにくく、過ごしやすさの妨げになるので、統一する必要はない。
- ・今年の1年生から制服が変わった。兄弟がいる場合、新しいものを買うことになる余計にお金がかかるので、制服を変えるくらいなら自由にしてほしい。
- ・運動着が白いTシャツならほとんど形も一緒なので、ビブスを着れば問題ない。
- ・学校の制服が決まっていなくて、自分のクラスには、細かな違いだが、シャツにレースのようなヒラヒラが付いている人もいる。個性を出しやすい環境だと思う。

【その他】

- ・指定店が決まっているので、親は「高い」と言っていた。
- ・制服は、特に女子はお金がかかる。制服も体操着も指定店でしか売っておらず、それで高すぎるということもある。もう少し売る店舗を増やして価格の競争をすれば、今より価格も下がって経済的に良いのではないかと思う。

< 学校長・学校事務職員からの意見 >

(1) 新入学用品について

- ・鞆は、昔は安かったが現在値上がりしている。生徒は通学鞆の倍くらいの大きさのバッグを二重背負いしているので、通学鞆をやめて一つの鞆にすることを検討している。保護者負担を減らすのはなかなか難しいが、まだ少し改善の余地はある。
- ・もし必要なものだけを買うことにする場合、各自買ってくださいますのが良いのか、学校で学年費からまとめて買うのが良いのか（不要な人には学年費を返金する必要もある）、どのような方法が良いか悩む。
- ・上履きを統一する理由は何か。
⇒・体育にも使うので、ある程度耐久性があつて値段も高くないものを望む。

上履きを自由にしている学校もあるが、運動に適さない靴（底が薄すぎる、厚すぎる等）を履いている子どももいるので、けがの面を考えると、今の状態は悪くないと思う。

- ・体育館は黒いソールがNG。耐久性を考えたときに、保護者がお店で適切な靴を選ぶことは逆に難しい面もある。値段は妥当なところだと思う。
- ・体育館シューズとして専用で作られており、運動能力や体格に適したものを作っていると思う。底の厚さなどを指定してしまうと保護者も大変になる。双方にとって選びやすい。3,740円だが、有名メーカーのものだともっと高くなってしまう。
- ・モデルチェンジや製造中止もあるので、昨年新しいモデルに変えたが、試し履きしたり、デザインを見たりして、みんなで考えて決めている。
- ・業者選定について、市から学校現場にアドバイスが欲しい。
- ・小学1年生は、ほかの学年より学年費を多く集めているので負担は大きいと思う。ただ、1年生の先生方が必要だと考えるものを購入している。
- ・一般企業なら経理がいるが、学校では学年ごとに学年費の管理を担当する先生がおり、本来の業務以外にそれを担っている。「学校で買わないので各自買ってきてください」と言うと、買ってこない家庭も出てくるだろう。だからと言って学年費で買うと、不要な家庭への返金を管理しなければならない（1学年100人以上）。
- ・以前は「そろばん」は個人持ちだったが、学校で買うようになった。そういった観点での見直しは必要

(2) 制服について

- ・制服は必要か。先生方の率直な思い、理由を聞かせてほしい。
- ⇒・意外と子どもたちや保護者は決まった服を着たいという意見が多かった。選べるように、ジェンダーフリーにした。学校の要望を伝え、モデルを作った上で、コンペで競争して決めた。価格は旧制服と同じくらいの価格に抑えてもらっている。女子の制服の費用負担は大きかったが、夏服を廃止して負担を軽減できた。
- ・制服の良さとしては、学校への所属感、誇り、希望をもって入学してくるということはある。
- ・高校に制服がない長野県が特異。逆に小学生でも制服がある地域もある。東京の私立学校は制服。その辺りに答えがあるのかなと思う。高校の制服を有名デザイナーのデザインに変えたら志願者が増えたという話もある。
- ・制服の効用は、所属がわかるので地域の大人が守ってくれること
- ・標準服に変えたので、リボン、ネクタイ、ズボン、スカート、みんな違う。

文化祭のステージも皆バラバラの服装で登壇したが、「(バラバラでも)いいじゃないですか」と、先生方の意識が随分変わってきた。以前は生徒指導主事が「こうなさい」と言っていたが、冬でも半袖を着たい子もいる。それぞれなので、うまくやっていきたい。

- ・子どもから「どうして制服が必要なの?」と聞かれたら、大人は答える責任がある。答えられないならやめたほうが良い。制服のない中学校は、もっと皆いろいろなものを着ているのかと思ったら、案外似たようなものを着ていた。高い制服でもいいし、量販店で買ってでもいいが、多分皆と違うものを買うのは勇気がいると思う。ルールをもっと柔軟に考えさせても良いが、その議論を子どもたちに持ち掛ける時間がなかったというのも現実。子どもたちにはいろいろな意見があるし、変えていく力もあるので、考えさせていくことは大切だと思った。
 - ・子どもたちはとても真面目。以前勤めていた学校で、トイレで鼻血を出している子がいたので話を聞くと、「ベストを着ていて暑い。でもみんなが着ているから脱がない」と言っていた。その後、生徒指導の先生から、夏はベストを脱ぐよう話してもらったが、生徒は制服があるとちゃんと着なければならぬという意識がものすごく高いと思った。自由なほうが良いという意見と折り合いがついて、気持ちの良い状態で学校に通えるようになれば良い。
- (3) その他、保護者負担軽減の観点から
- ・今、消耗品や行事のバス代等が値上がりしていて、ただでさえ保護者負担は増える傾向にある。負担を減らすためには、公費負担できるものが他にないか、予算も限られていると思うが、子育て支援として検討してほしい。
 - ・各学校で公費で買っているものを調査し、公費負担で学校に備え付けることが妥当と考えるものについては、根拠となるデータをまとめて提案したい。

【参考】令和5年度第2回総合教育会議 開催概要

1 日時

令和6年2月6日（火）
午後3時30分～5時

2 会場

松本市役所本庁舎3階 第一応接室

3 テーマ

小中学校における制服・新入学用品等の購入に関する提言（案）について

4 出席者

臥雲市長、伊佐治教育長、小柳教育長職務代理者、佐藤教育委員、春原教育委員、福澤教育委員、荒井教育顧問（信州大学教職支援センター准教授）、宮之本副市長、総務部長、行政管理課長、教育次長、教育監、教育政策課長、学校教育課長ほか3名



<提言案についての市長からの意見>

- ・極めて違和感のない提言であるという印象を持った。
- ・教育委員会（教育長及び教育委員4名で構成される行政委員会）の皆さんが、関係者と協議しながら政策形成を進める意義は大きい。
- ・この提言が空証文になってはいけない。
- ・「子どもが主人公」、多様性・創造性・主体性を大切にする学びを掲げている「松本市教育大綱」が松本市の教育政策の軸になっていることを、改めて強く感じた。
- ・この提言書で一番印象に残ったのは、「将来的には、小学校も中学校も高校も、7歳から18歳まで、学校に着ていく服が決まっていない松本市であれば素敵だなと思います」というフレーズ。私たちが「松本らしさ」と思うのは、東京の私立の学校が素敵で高価な制服で子どもたちを引きつけるのと対峙する、このフレーズにあるようなことだと思う。
- ・このテーマを一つの土台にしながら、行動する教育委員会として、ぜひさまざまな活動をしていただきたい。


<提言案についての荒井教育顧問（信州大学教職支援センター准教授）からの意見>

- ・教育委員会の教育委員の皆さんが、主体的に課題を設定し、時間をかけて丁寧に当事者の方とコミュニケーションをとり、政策形成につなげていく取り組みは、とても貴重である。特に、この取り組みが、松本市の教育大綱のコ


ンセプトとの関係を考慮して展開されている点が素晴らしく、教育委員の活動として全国に発信すべき取組事例であると言える。

- ・中学生の意見のうち、「制服があったほうが良い」という声が多かった点について意外だったとの受け止めがあったが、「制服」の存在自体が学校生活の象徴として位置付けられ、「隠れたカリキュラム」として機能していると考えられる。教科などの「公式」のカリキュラム以上に、教員の日々の振る舞いや、同じペースで学ぶスタイル、一列に整列をする行為、声の大きさなど、日常的な一コマ一コマが子どもたちの人格形成や価値観に大きな影響を与えているという点に、私たち教育関係者はもっと自覚的である必要がある。
- ・松本市の教育大綱のキーワードのうち、「多様性」という観点から考えると、教育現場では、「均一的・強制的に物事を揃えることで得られる美しさ」よりも、「多様な個性に基づく自己表現が共存・共生することで得られる美しさ」をより重視していく必要がある。
- ・現在、全国的にもこれまでの「当たり前」を見直していく取組みが学校レベル、教育行政レベルで進められている。今回の提言を、今後どのように生かしていくのかが問われているため、全国的な取り組みの内容とともに、その取組みの進め方・生かし方、周知・広報の仕方、評価の仕方も学んでいくことが、ご協力いただいた子どもたちや保護者の皆様に対する説明責任をきちんと果たしていくという点で重要である。
- ・教育費をめぐるっては、全国的にも無償化や一部無償化など様々な動向がある。その負担軽減の方法についても、教育行政として重要なテーマの一つとして議論を深めてほしい。

【参考】第9期まつもと子ども未来委員会 市への提言（抜粋）


令和5年11月19日 

まつもと子ども未来委員会 市への提言

第9期まつもと子ども未来委員会 

まつもと子ども未来委員会とは…？



- ◆ 「松本市子どもの権利に関する条例」に基づいて開催
- ◆ 委員：小学5年～高校3年生
学校、地域、年代を越えて活動しています！
- ◆ 松本市の取り組みや、地域の課題を学び、話し合い、松本のまちづくりを自分たちで考えています



< 日常生活の改善グループ ～私たちを取り巻く環境～【校則の改善】から >

松本市の課題 【校則の改善】

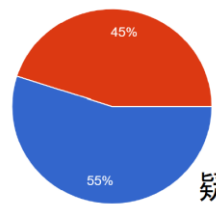
- ・先生の見解ばかりが反映され、生徒の意見を話す機会がない
- ・意見を話してもそれが校則に反映された経験がない
- ・生徒は校則を知る機会が少なく全て把握していないため校則違反で先生に指導されても…

中学校の校則についてのアンケート

自分の学校の校則に疑問がありますか
60件の回答

はい	55%
いいえ	45%





疑問を持っている人は
全体の半数以上！

疑問のある校則の具体例

- ・手首に髪の毛のゴムをつけてはいけない
- ・整髪剤を使用してはいけない

～服装の色の指定について～

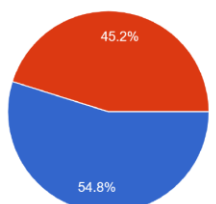
- ・靴下
- ・髪の毛のゴム
- ・カーディガン

中学校の校則についてのアンケート

学校生活の中で先生や友達と校則について話したことがありますか
62件の回答

はい	54.8%
いいえ	45.2%

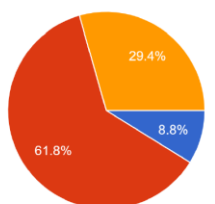


話したことがある人は
半数以上！
特に先生と話したことがある人は
20%未満！

中学校の校則についてのアンケート

はいと答えた人に質問です。いつ話しましたか
34件の回答

授業中	8.8%
休み時間	61.8%
放課後	29.4%



授業中に話した経験がある人は**1割未満**
休み時間や放課後に話した経験がある人は**9割以上！**

市への提言 【校則の改善】

- ・校則について話し合う時間を設けてほしい
- ・定期的なアンケートの実施

アンケート 